らいぶらりぃ

米原高校 図書館

7月

学園祭、充実した時間が過ごせましたか？
今回は高体連中の「読書の時間」で書いてもらった感想を紹介します。

感想いろいろ!!

『ツナグ』　辻村深月／著
一生に一度だけ、死者との再会が出来るという話で、突然死したアイドルや癌であることを言わずに死んでしまった男の子とその周りで悲しむ生者の想いが綴られている感動作でした。私が印象に残った言葉は、「失われた人間を自分のために生かすことになっても。日常は流れるのだ」という部分で共感しました。（2年）

『銀河鉄道の夜』 宮沢賢治／著
「丁度星が砕けて散るときのようにからだがばらばらになって一本ずつの銀毛はまっしろに光り、羽虫のように北の方へ飛んで行きました。」などとてもきれいな表現の仕方がたくさんあって読んでいて楽しかったです。（2年）

『はなだより』 深町なか／著
「しあわせも、さびしさも、ふたりで分け合う。どんな自分をさらけだしてでも一緒にいたいと願う相手がいる。誰かと生きていくって、きっとそういうことなんだろう。」誰かと生きていく中でしあわせなことはもちろん分け合うけど、“さびしさも分け合う”という言葉に感動しました。しあわせだけでなく、さびしさも分け合うことで、もっと絆や愛が深まるんだなと思いました。（2年）

『Nのために』　湊かなえ／著
超高層マンションで夫婦の死体が発見された。証人は4人。それぞれ“N”に想いをよせ、いろんな重いがまじわっておこったこの事件。4人が何を隠し守っているのか矛盾点を考えながら読むとさらにおもしろかった。（2年）

『葡萄が目にしみる』　林真理子／著
特別なことは何一つないような地方高校の生徒たちの日常生活を描いた本に、ここまで引き込まれたことがないのと、登場人物たちの気持ちに感情移入しやすく、場面の情景が想像しやすかったので、とても面白い本でした。ぜひ読んでください。（2年）

『心を整える ー56の習慣ー』　長谷部誠 ／著
この本は何度も繰り返し読みたくなる本です。著者の今までの人生経験から学んだことや様々な面においての考え方などが本当に深く書かれていました。高校生活で部活・勉強・人間関係などで悩んだりムシャクシャすることがあってもこの本を読むと冷静になれ自分を客観的に見ることができました。とてもためになることが書いてあり、勉強になりました（2年）

『元彼の遺言状』　新川帆立／著
印象に残った文章は、元彼である栄治の遺言状の中にある「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という言葉です。最初は、わけも分からず理解できなかったけれど、よんでいるうちにどんどん内容が分かってくる新感覚のミステリーでした。（2年）

『死にたいけど、トッポギは食べたい』　ペク・セヒ／著
この本は、10年以上軽度のうつ病と不安障害を持った若者が精神科の先生と話をするという内容だ。自己憐憫を解消していく流れや私が触れたことのないような考え方が書かれていたので、すごく興味深かった。自分があたり前だと思っていてもある人にとってはそうではないということを理解して過ごしていきたいと思った。（2年）

『オーダーは探偵に』 近江泉美／著
この本はカフェのオーナーが探偵になって依頼を解決していくお話です。依頼の内容が亡くなった妻の霊を探すなどの特殊なものでどんな方法で解決するのだろうとドキドキして読めておもしろかったです。（2年）

『どこよりも遠い場所にいる君へ』　阿部暁子／著
読者が気になるようなことが一番後ろに書かれていて、最後まで読み切ろうという気持ちになれる。本の中で人との関係や時間の経過が複雑だから、少し読むのは難しいかと思う。でもその複雑な関係が分かってくると、心がスッキリするような本になっている。（2年）

『となりの席』山田悠介／著
スリル感があって面白かった。ホラー物だから少し怖かったけれど、話がサクサク進むので読みやすく、途中で飽きることもなかった。キャラクターの個性が随所で生かされていて読みやすかった。（2年）

『真夜中のディズニーで考えた働く幸せ』　鎌田洋／著
鎌田さんはディズニーのキャストになるために何度も履歴書を送り、それもだめで、本社に手紙を出したりしていてあきらめないことは大切だと改めて感じました。印象に残った文は「運命とは実は自分が作り出すもので偶然に与えられるものではない。自分の強い意志が自分の道を切り拓く」という文です。 自分の意志を持つことで、運をつけたいと思いました。（2年）

『Newton 心理学の授業』
人の考えや記憶は周りからの刺激によって簡単に書き換えられてしまうことが分かりました。心理学について興味があったのですが、実験を通して新しい発見をする面で、理系の科目になると思いました。他のシリーズも読んでみたいです。（2年）

『余命3000字』村崎羯諦／著
小さい物語がたくさん入っていて、短い時間でも読める、1つの話が3000字だけど、内容が深く、本当に3000字かと疑うほど面白い（1年）

『子どもたちは夜と遊ぶ』
辻村深月／著
何気ない情景を多様な語りで細かく表すことで、様子が目に浮かぶようでした。人と人との会話やコミュニケーションのリズムの描き方がとても素敵だと思いました。（1年）

『君の存在を意識する』
梨屋アリエ／著
私には字が書けないとか、文字を読むことを難しいと感じたことがないし、気にしたこともなかったけれど、この本を読んで自分ではどうしようもないことで他人から勝手に評価されることの怖さがわかりました。もっと他人の気持ちを考えようと思える作品でした。（1年）

『恋に焦がれたブルー』　宇山佳佑／著
まだ最後まで読めていないですが、前半だけでも題名にある「ブルー」に関することがたくさんでてきて、この話全体に深く関わってくるんだろうなと思った。主人公が男の子に出会って前を向いて強く生きていく姿に感動した。空の情景などを使ってあざやかな色で気持ちが書かれていてとてもおもしろいです。（1年）

『雨の降る日は学校に行かない』
相沢沙呼／著
学校に溶け込めない中学生の気持ちに共感することがたくさんあった。また、考えさせられる本でもあった。現代を生きる中高生にはオススメの本だと思う。苦しいこと、つらいことなどたくさんあるけど頑張っていこう！前へ進もうと思わせてくれる本だった。（1年）

『余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話』
森田碧／著
余命がわずかだと自分がもしそうだったら、私もきっと秋人のようにいかりをぶつけるだろうし、本当に実感がわかなくなってしまうだろうと思った。余命わずかな2人がこれからどうやってお互い接していくようになるか、続きがとても気になる。（1年）

『告白』　湊かなえ／著
1つの事件から複数の人の価値感、背景が見えてくるので同じ時間軸が繰り返されるところも多くあり、糸がほどけていく感覚を味わうことができた。最初の一行から最後の一行まで休憩するひまがないｼﾞｪｯﾄｺｰｽﾀｰのような本でした。（1年）

『バッテリー』　あさのあつこ／著
主人公は無愛想だし、とっつきにくい感じだけど、野球に関しては、誰よりも誠実に向き合っていて、そこまでのめりこめる何かがあるっていいなと思いました。この本はシリーズもので途中までしか読めていないので、続きも時間があるときに読んでみたいと思いました。（1年）

『さよなら嘘つき人魚』汐見夏衛／著
2人の主人公がそれぞれ母親に縛られ、自分らしく生きていけないことが題材となった物語です。「大人に頼るって発想がまるでなかったです。」という文章が印象に残り、こういう考え方を生み出している環境にも注目して読んでみてほしいです。（1年）

『夢十夜・草枕』夏目漱石／著
高校1年の時に現代文で夢十夜をならいました。その際は第一夜と第六夜のみでしたが、読んでいくとロマンチックな話やミステリックな話など、いろいろなジャンルの話が読めて面白いと思いました。（2年）

『木漏れ日に泳ぐ魚』　恩田陸／著
最初の一文から何か切なさを感じさせ、暗い雰囲気で進んでいくところが興味を引きつけられ良いと思った。お洒や煙草の話は体験したことがないので、少し理解するのが難しかったが誰でも読み進めることができる本だと感じた（1年）

『フェルマーの最終定理』サイモン・シン／著
数学に関係する本で理解すること自体は中学数学の範囲だけでもできるような問題があるのでおもしろかった。いろいろな数学の豆知識をつけることができて良い。（1年）

『がん消滅の罠 完全寛解の謎』
岩木一麻／著
二重、三重にも仕掛けられたトリックにおどろいた。最後の最後まで何がおこるのだろうとワクワクさせてくれる本。（1年）

キリトリ

この本読みたいです!!

予約・リクエスト、随時受け付けてます。この便りをみて、読んでみようと思う本があったらこの部分を切り取って図書館へGO！他の本でもOKです。

題名　　著者

年　　組　　番　名前